

“今注目の後施工スリット工事 ノンピック新工法(片側施工)”

# ノンピック スリーライン工法

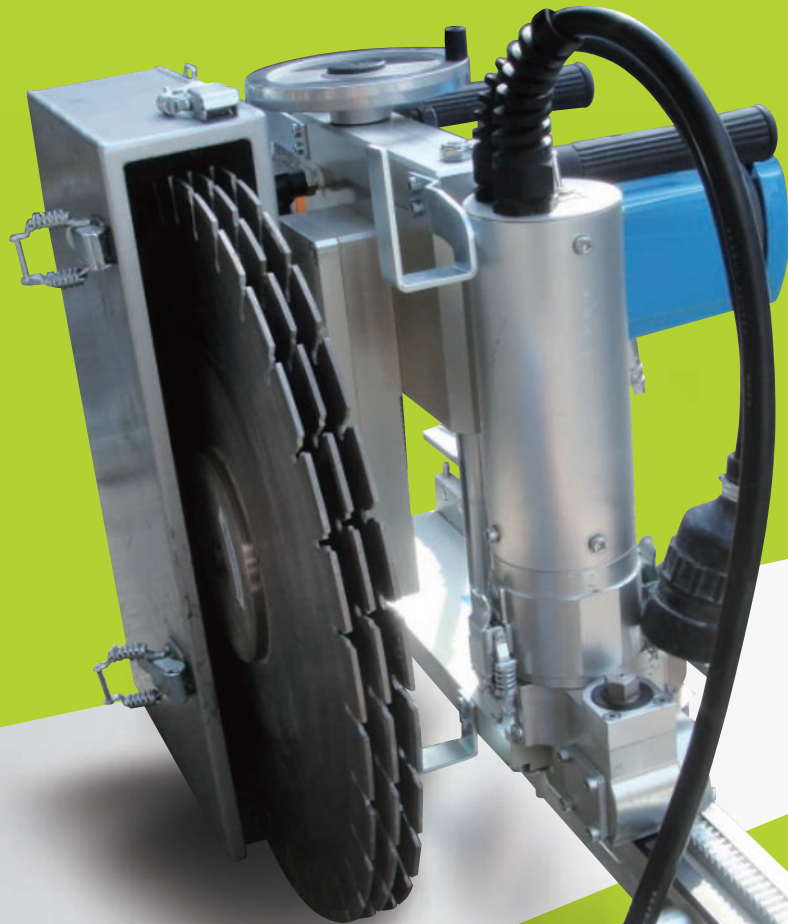
**【NP3L工法】** ノンピックスリーライン工法／NP3L工法は登録商標です  
(ノンピック工法同等)

特許:第3609011号

建防災発第16051号

★技術評価取得により部分スリットが、完全スリットと同等の耐震効果

★3条切り小型切断機の開発により、コストダウンに成功★



★打撃工事不要、住戸内の工事が不要で  
「居住しながら耐震補強」

## 3 スリット工事施工比較

### スリット工事施工比較

項目	ノンピックスリーライン工法	在来工法(ウォールソー工法)
騒音(外部作業室内側平均)	78db	ウォールソー 77db はつり 96dp
粉塵	無し	有り(はつり作業時)
打撃	ほぼ無し	有り(はつり作業時)
スリット幅	30mm~50mm	30mm~50mm
部分スリットの場合の施工可能な壁厚(掘り込み深さ)	165mm迄	300mm
スリット1ヶ所あたりの長さ 施工制限	500mm以上	700mm以上
1日の施工メーター数/台 (壁厚深さ150mmの場合)	4~5m	4~5m
施工スペース(横幅)	スリット端部より左右 450mm以上必要	スリット端部より左右 600mm以上必要
施工スペース(奥行)	壁面より750mm ※750mm以下は要相談	壁面より900mm
施工面(完全スリットの場合)	片面作業	内・外両面作業
既存鉄筋の残し作業及び 埋設配管等の残し作業	不可能	不可能
部分スリットの最低残存厚さ コンクリート最低の残し巾	10mm程度	50mm
部分スリットの場合、 目地底の仕上り	ほぼ直角(平)	先細り
スリット施工完了後の補修作業	ほぼ無し	角かけ補修有り
スリット施工誤差、人為的ミス	ほぼ無し (制御装置付マシン使用)	可能性有り (非貫通の予定が貫通してしまった等)
安全性	はつり作業がないので、 コンクリートの飛散がない	はつり作業時の、コンクリート の飛散が多い
使用スリット材	当社製、2時間耐火 二次シール付耐火スリット材(幅30mm)	
施工に関する資格	ノンピック工法研究会施工技能者 又はノンピック工法施工技術指導者	
施工に関する教育	ノンピック工法研究会にて定める 約60日間の施工実務研修及び筆記試験	

※コストに関しては諸条件等により大幅に変動致しますので、お問い合わせ下さい。

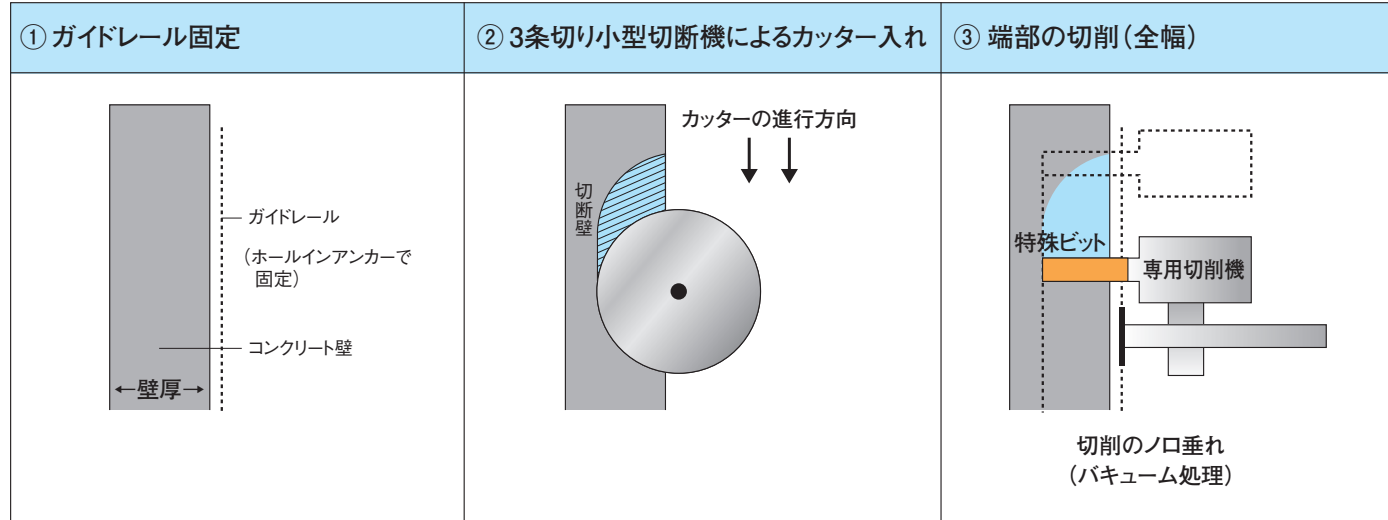


# 1 工法概要・断面、正面図及び施工スペース

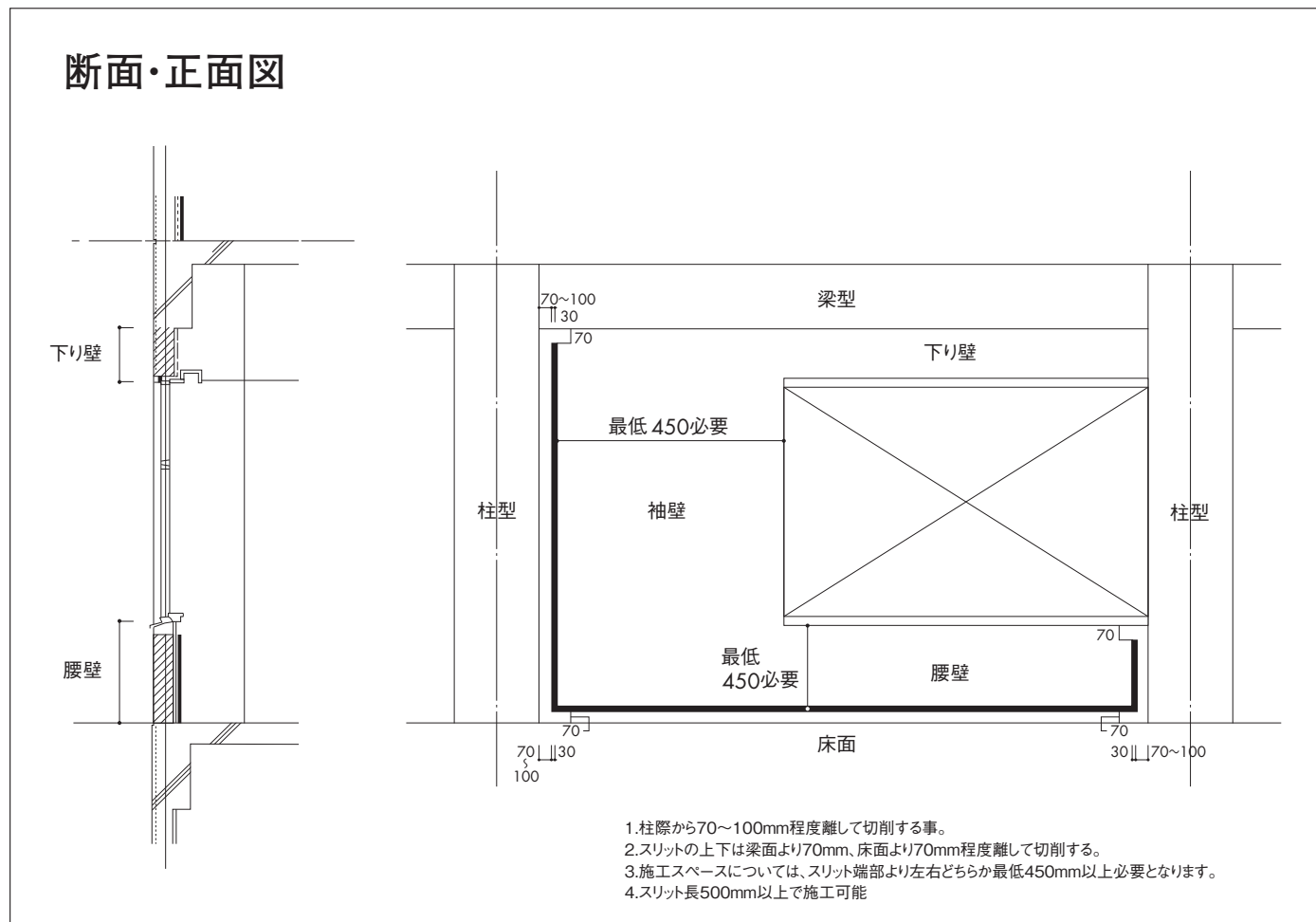
## 工法概要

3条切り小型切断機を用いることで1回の作業でスリット位置に3本の溝を入れ、打撃作業を行わずにバール等で溝間のコンクリートを撤去してスリットを形成する。スリット上下端部においては特殊ビット付専用切削機にてコンクリートのR部分を切削し処理します。又、はつり不要、低振動・小廃棄物・精度抜群の画期的工法です。

※スリット幅30mm(～50mm)×深さ165mm迄の切断、又完全型・欠損型の両スリットの施工が可能です。  
※切断・切削の施工能率は幅30mm×深さ100mmで平均5～8(m/日・機)程度です。



## 施工対象の垂直・水平スリットの施工スペース 施工対象の標準おさまり



# 2 φ30切削時の施工フロー及び施工写真

## φ30切削時の施工フロー

## 写真

- ★ 墨出し(元請)
- ↓
- ガイドレール取付け用アンカー位置の墨出し
- ↓
- アンカー打設
- ↓
- ガイドレール取付け
- ↓
- 壁床等の水養生
- ↓
- 3条切り小型切断機取付け
- ↓
- コンクリート切断
- ↓
- コンクリート撤去
- ↓
- ノンピック用切削機取付け(付替え)
- ↓
- 上下端部(R部)コンクリート切削
- ↓
- スリット部洗浄
- ↓
- 既存鉄筋露出部錆止め処理
- ↓
- スリット材取付け用プライマー処理
- ↓
- スリット材取付け
- ↓
- ★ シーリング工事(別途工事)

※★印に関しては元請様にてお願い致します。

